



JCU REPORT

株主・投資家の皆様へ

第58期 年次報告書

(2017.4.1 ●● 2018.3.31)



株式会社 JCU
証券コード：4975

会社設立50周年を迎えました。 ステークホルダーの皆様へ、

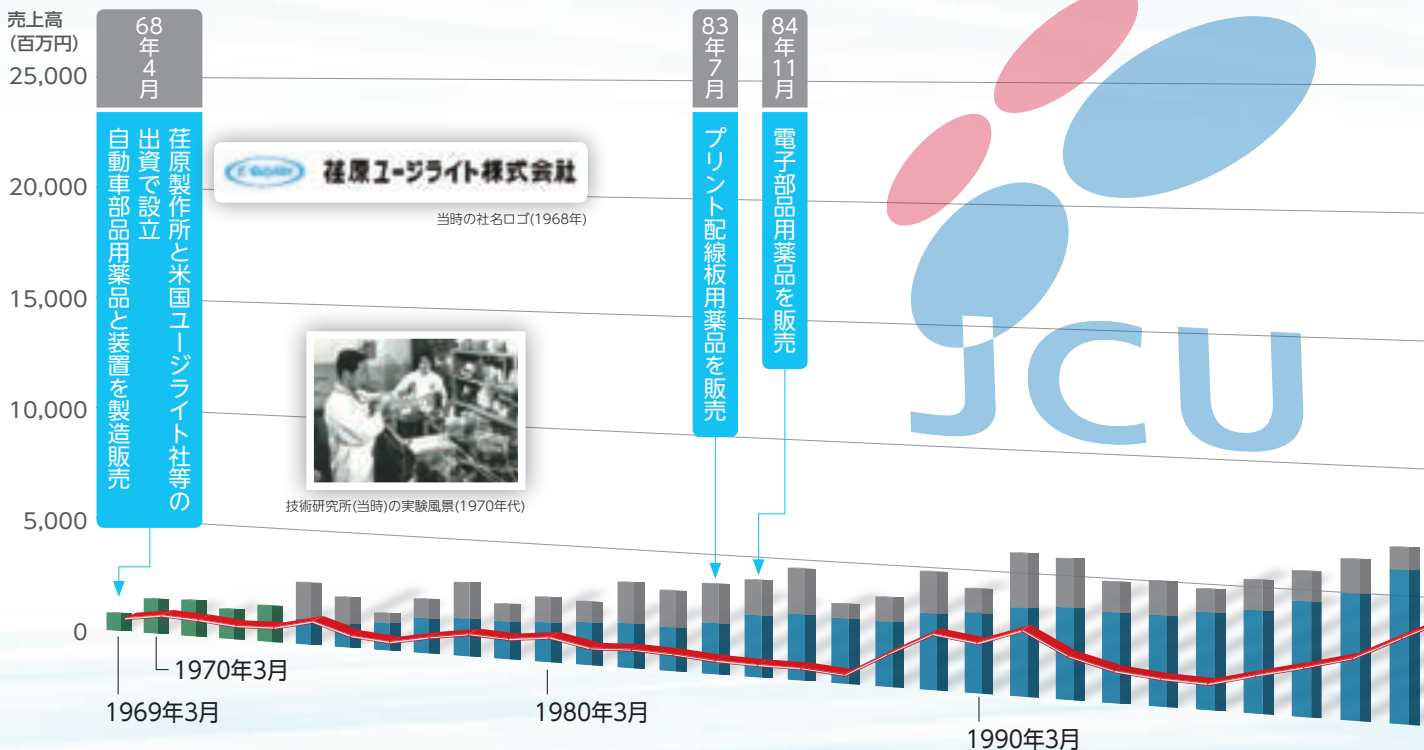
当社は2018年4月に会社設立50周年を迎えることができました。

これまでお客様の多大なるご支援とお引き立てや、仕入先のご支援ご協力、また従業員の懸命な努力、株主の皆様のご理解など、ステークホルダーの皆様のご厚情により持続的成長の道を歩むことができました。改めて厚く御礼申し上げます。

今後さらなる高みを目指し、50年にわたり培ってきた技術と経験を基に、

市場ニーズを的確に捉えることや開発の迅速化とお客様満足度の向上をキーワードに、さらなる成長を目指します。

■ 薬品事業 ■ 装置事業 ■ 新規事業 ■ 営業利益



改めて厚く感謝申し上げます。



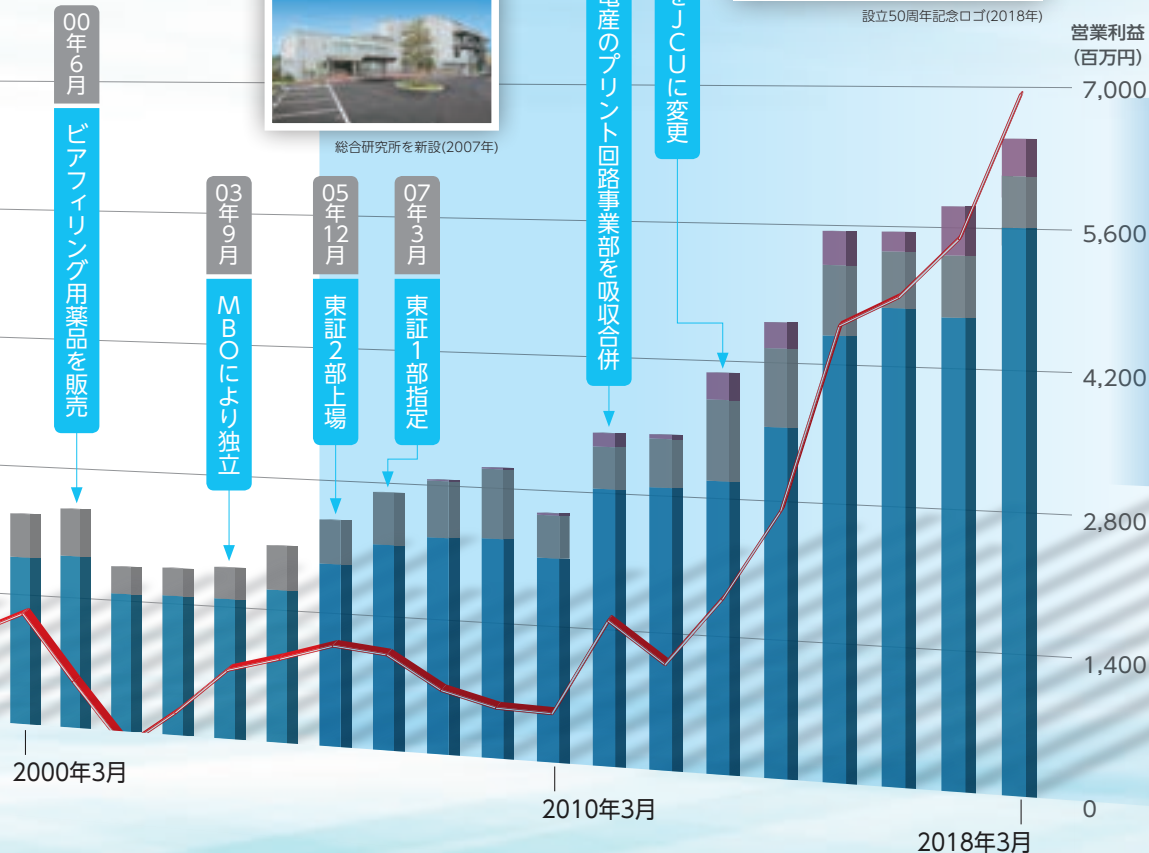
東証二部上場(2005年)



総合研究所を新設(2007年)



設立50周年記念ロゴ(2018年)



設立50年
これからの
50年

7期連続の増収

平素は格別のご愛顧を賜り、厚く御礼申し上げます。

第58期の業績と第59期の展望、今後の経営方針について、代表取締役会長兼CEO小澤恵二のインタビュー形式でご報告いたします。

設立50周年を好調な決算で終え、
関係各位に感謝

◆ 第58期(2017年4月1日から2018年3月31日)も増収増益を達成。これにより6期連続の増収増益となりました。

第58期は2度の業績予想の上方修正を経て、売上高231億20百万円(前期比11.4%増)、営業利益69億48百万円(同26.3%増)、経常利益69億72百万円(同26.7%増)、親会社株主に帰属する当期純利益49億6百万円(同18.9%増)と増収増益を達成しました。当社は4月1日に、前身の荏原ユーザライト設立以来、50周年を迎えました。その節目の年を好調な決算で終えることができ、関係各位に深く感謝申し上げます。

◆ 1株当たり配当金は、記念配当2.5円を含め10円増配の年42.5円となりました。さらに第59期(2018年4月1日から2019年3月31日)は年45円と、9期連続の増配を予想しています。

(注)配当金は、第58期の期首に株式分割が行われたと仮定して算出しています。

当社は減益の時でも耐えて配当を維持し、増益の時にはできる限り株主の皆様へ還元する方針を貫いており、その方針は今後も変わりません。

代表取締役会長 兼 CEO

小澤 恵二

企業理念

表面処理技術から
未来を創造する

増益、9期連続の増配へ挑む

◆ 第59期は7期連続の増収増益を見込んでいます。

第59期は売上高260億円(前期比12.5%増)、営業利益73億円(同5.1%増)、経常利益73億円(同4.7%増)、親会社株主に帰属する当期純利益52億円(同6.0%増)と増収増益を見込んでいます。海外市場においては、スマートフォン用プリント配線板向け薬品および自動車部品向け薬品の販売が引き続き堅調に推移するとみています。一方、国内市場においては、薬品販売が微増とみています。既存シェアの保持、拡大のため、次世代技術に対応した高性能薬品の開発や、顧客ニーズに合致した新製品の市場投入を図ります。

ハイエンドスマートフォン減産の影響は軽微、FPC導電処理設備を初受注

◆ ハイエンドスマートフォン減産報道がありました。

影響は？

2017年のスマートフォンの世界出荷台数は前年を下回り15億台を割りました。そのうちハイエンドスマートフォンの割合は比較的低く、いまのところ大きな打撃はあまりありません。むしろ当社にとっては、中国メーカーの方に関心があります。第58期の当社全体の売上高に占める中国比率は約30%。今後も高まると予想しています。

◆ 自動車の電装化が進み、車載用のプリント配線板ニーズが増えそうです。

スマートフォンの世界出荷台数の伸びが鈍化する中で、自動車の電装化は非常に楽しみな分野です。これまでの装

飾、防錆のめっきからスマートフォン同様、電子部品への機能付与で自動車の電装化に貢献してまいります。

◆ 世界初のめっき法によるフレキシブルプリント配線板(FPC)フィルムへの導電処理工業化技術の受注はいかがでしょうか？

ようやく、初の受注が決まりました。FPCは薄く、軽く、自在に曲げられる基板で、次世代スマートフォン、有機ELディスプレイ、車載用途、身につけて持ち歩くことができるウェアラブル端末などに需要拡大が見込まれています。今回の納入実績を基に、今後の受注に弾みをつけていきたいと考えています。

◆ 4月にはワインの製造・販売を行う全額出資子会社の設立を発表しました。その狙いは？

北海道滝川市に太陽光発電設備を設置したご縁から、北海道が所有している遊休地を借り、純国産の高品質ワインの普及とブランド化を目指すことになりました。葡萄生産の北限と言われる北海道から、ブランドワインを産み出し、農業振興の一翼を担いたいと思っています。

◆ 第59期は3カ年中期経営計画の初年度となります。

第61期(2021年3月期)は売上高265億円、営業利益75億円、純利益57億円を計画しています。

地政学リスクなど世界経済は予断を許さない状況ですが、目標達成に向けて邁進してまいります。

株主・投資家の皆様におかれましては、これまで以上のご愛顧ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

目で見える連結決算ハイライト（第58期期末）

売上高

23,120 百万円

前期比11.4%増



営業利益

6,948 百万円

前期比26.3%増



経常利益

6,972 百万円

前期比26.7%増



親会社株主に帰属する当期純利益

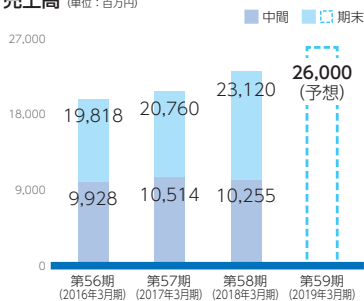
4,906 百万円

前期比18.9%増

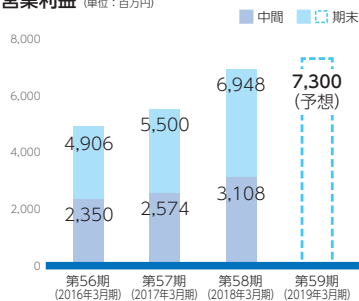


財務ハイライト(連結)

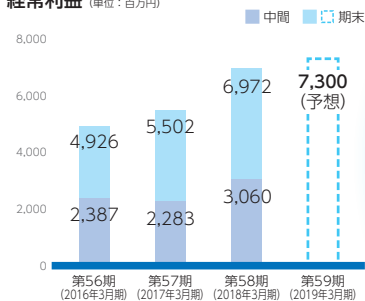
売上高 (単位: 百万円)



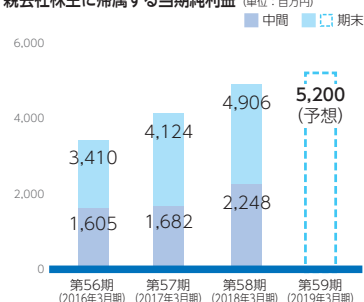
営業利益 (単位: 百万円)



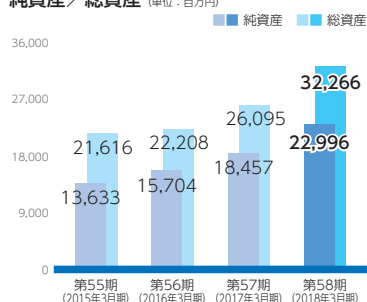
経常利益 (単位: 百万円)



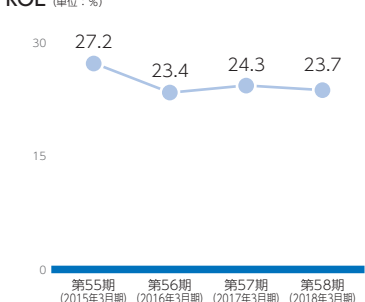
親会社株主に帰属する当期純利益 (単位: 百万円)



純資産／総資産 (単位: 百万円)



ROE (単位: %)



装置事業

7.6%

新規事業

6.2%

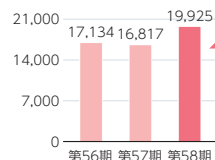
セグメント別 業績概況

薬品事業

86.2%

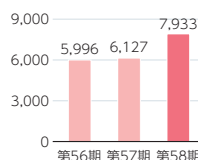
薬品事業

■売上高 (単位: 百万円)



売上高
19,925
百万円
前期比
18.5%増

■セグメント利益 (単位: 百万円)



セグメント利益
7,933
百万円
前期比
29.5%増

当社薬品使用例



自動車部品

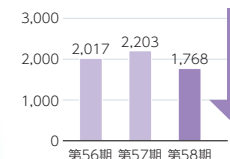


プリント配線板

薬品事業におきましては、ハイエンドスマートフォン向けのプリント配線板製造を行う顧客において新工法の量産があったことに加え、中国系スマートフォン向けの需要については高機能化等を背景に堅調に推移したことから、中国、台湾、韓国におけるプリント配線板用めっき薬品の販売が順調に推移しました。中国においては日系自動車の生産及び販売が好調であったことから、自動車部品用めっき薬品販売も堅調に推移しました。また、国内の薬品販売においても、電子分野向けを中心に回復基調で推移しました。この結果、売上高は19,925百万円(前期比18.5%増)、セグメント利益は7,933百万円(前期比29.5%増)となりました。

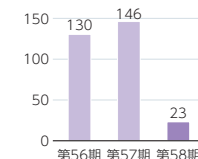
装置事業

■売上高 (単位: 百万円)



売上高
1,768
百万円
前期比
19.8%減

■セグメント利益 (単位: 百万円)



セグメント利益
23
百万円
前期比
83.9%減

製品一例

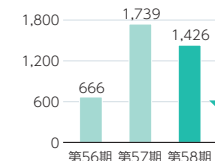


全自動表面処理装置

装置事業におきましては、国内及び海外において自動車部品向け大型めっき装置案件を獲得したことから、受注高は4,857百万円(前期比125.3%増)となりました。手持ちの工事契約は増加したものの、製作・据付工事に時間を要することから、売上高は1,768百万円(前期比19.8%減)、セグメント利益は23百万円(前期比83.9%減)となりました。

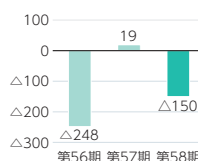
新規事業

■売上高 (単位: 百万円)



売上高
1,426
百万円
前期比
18.0%減

■セグメント損失 (単位: 百万円)



セグメント損失
150
百万円
前期比

新規事業一例



太陽光発電設備

新規事業におきましては、前期好調であったプラズマ装置の受注が減少したこと及び太陽光発電設備の大型案件の受注がなかったために、受注高は485百万円(前期比70.0%減)となりました。受注が減少した影響から、売上高は1,426百万円(前期比18.0%減)、セグメント損失は150百万円(前期はセグメント利益19百万円)となりました。

第57期より、組織変更に伴い、従来「新規事業」に含まれていた貴金属めっき薬品および新機能コーティング材について「薬品事業」へ含めて表示しております。なお、第56期のセグメント情報については変更後の区分方法により作成したものを記載しております。

連結財務諸表

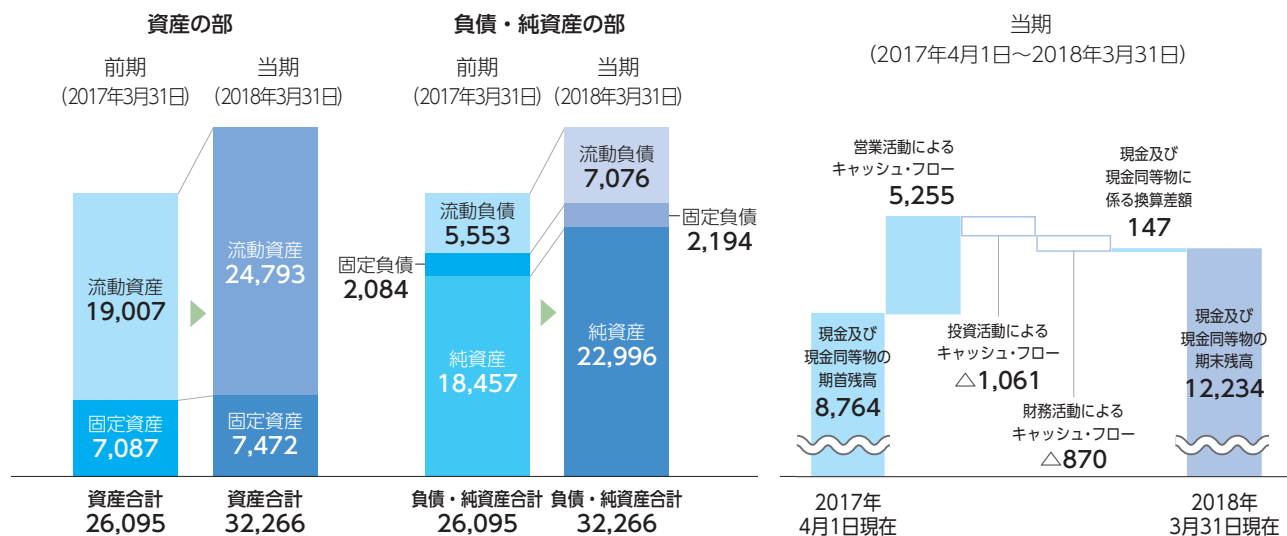
▶詳細な財務情報は、当社ホームページよりご覧いただけます。 <https://www.jcu-i.com/>

連結貸借対照表

(単位:百万円)

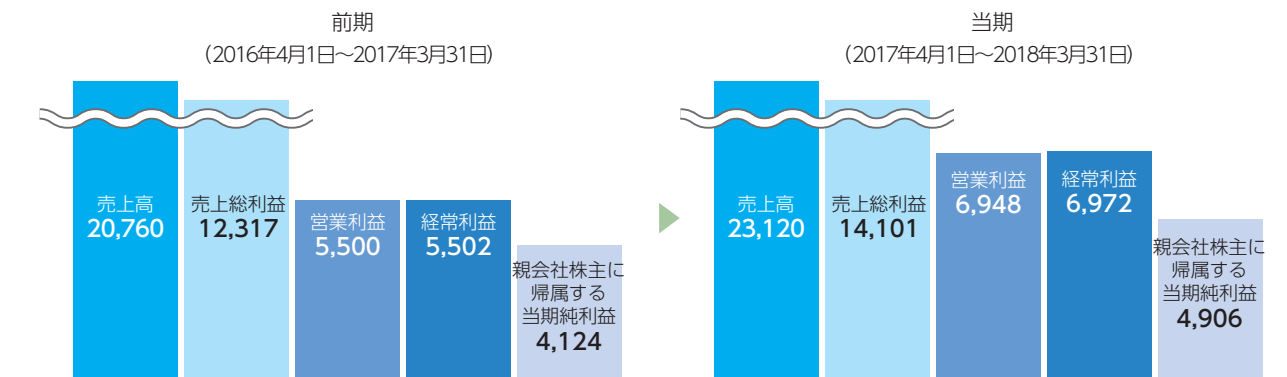
連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)



連結損益計算書

(単位:百万円)



JCUを訪ねて

グローバル拠点のご紹介

タイの現地法人であるJCU (THAILAND) CO., LTD.から、女性管理職であるノイさんにインタビューを敢行。海外という視点からJCUについて語っていただきました。

JCU (THAILAND) CO., LTD. <タイ現地法人>
 経理部門 ゼネラルマネージャー
 ティリサラーウィチャコン (通称:ノイ)
 2007年入社



1 どのような仕事をしていますか？

私は、JCUタイの設立時に入社し、今年で11年目になります。2012年から現職の総務と経理の責任者になり、他のスタッフとともに会社の運営を支えています。

2 タイ現地法人設立から現在まで、どのような変化や苦勞がありましたか？

設立当初は5名でスタートしましたが、現在37名になっています。規模が大きくなるにつれ、会社のルールや規則などを、細かく設定することに苦勞しました。また、それらの規則に基づいてどのように37名のスタッフを管理するか、そして、会社としての共通の目標を、全員にいかにも持ってもらうかに苦勞しています。



タイ現地法人のオフィスにて

3 仕事をする上で、気を付けている事は何ですか？

経理業務の遂行において、日本とタイのルールの両方を満足させなければならないため、両方の内容がマッチしない場合に、妥協点を見つけることに注意を払っています。

4 タイ現地法人のスタッフにとって、JCUは働きやすい会社ですか？

とても働きやすいです。なぜなら、家族的な雰囲気があり、皆が共通の意識を持って助け合っているからです。また、日本のスタッフやタイ駐在の日本人スタッフのサポートも厚く、特にタイに駐在している日本人スタッフは、タイ人スタッフの考え方を、理解しようと努力してくれています。

5 JCU独自の制度で良いところがあったら教えてください。

私たちタイ現地法人を含む海外現地法人のスタッフが、毎年、日本で開催される研究発表会と懇親会に参加する機会があります。日本の施設を見ることができ、日本の文化に触れることによって、参加したスタッフの視野が確実に広がっています。また、タイ現地法人が独自に開催している毎年のタイ国内旅行は、より良いチームワーク作りに役立っていると思います。

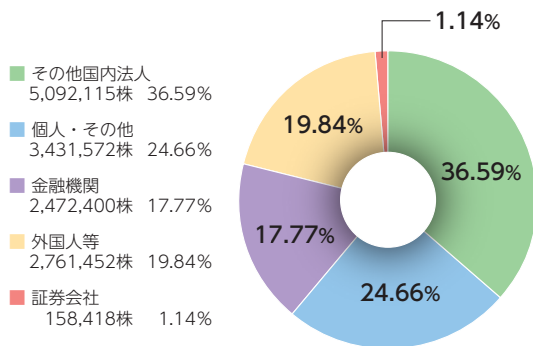
6 最後に一言。

この環境で働けることに感謝し、今後もJCUグループの一員として会社の成長を支えていきたいと思っています。

株式の状況

発行済株式総数……………13,915,957株
株主数……………6,201名

所有者別株式分布状況



大株主の状況

株主名	持株数(株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	806,800	5.79
日本パーカライズング株式会社	454,000	3.26
日本高純度化学株式会社	440,000	3.16
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	402,800	2.89
荏原実業株式会社	400,000	2.87
株式会社スレイ	400,000	2.87
JP MORGAN CHASE BANK 380634	375,800	2.70
日本化学産業株式会社	372,000	2.67
THREADNEEDLE INVESTMENT FUNDS ICVC-JAPAN FUND	335,700	2.41
神谷理研株式会社	320,000	2.29
栄電子工業株式会社	320,000	2.29

商号 株式会社JCU(2012年10月1日より)
本社所在地 東京都台東区東上野四丁目8番1号 TIXTOWER UENO 16階
設立 1968年(昭和43年)4月1日
資本金 1,191,575,348円
事業所 ■ 国内
総合研究所 生産本部 大阪支店 名古屋支店 九州営業所
■ 主要な連結子会社
JCU(上海)貿易有限公司
JCU (THAILAND) CO., LTD.
台湾JCU股份有限公司
JCU KOREA CORPORATION
JCU VIETNAM CORPORATION
JCU(深圳)貿易有限公司
PT. JCU Indonesia
JCU AMERICA, S.A. DE C.V.(メキシコ)
JCU INTERNATIONAL, INC. (アメリカ)
JCU CHEMICALS INDIA PVT. LTD.
櫻麗泉(上海)国際貿易有限公司

役員一覧

(2018年6月27日現在)

代表取締役会長兼CEO	小澤 惠二
取締役副会長	君塚 亮一
代表取締役社長兼COO	木村 志昌
専務取締役専務執行役員	木谷 野
常務取締役常務執行役員	大森 晃久
常務取締役常務執行役員	大新 隆一
取締役常務執行役員	松本 順
社外取締役	高木 正彦
社外取締役	藤中 保隆
社外監査役	市川 充
社外監査役	笠井 成志
社外監査役	笠井 史樹
執行役員	萩原 秀智
執行役員	鈴木 井雄
執行役員	今井 豊一
執行役員	池側 浩文
執行役員	井上 洋二
執行役員	大野 晃
執行役員	大田 則之

従業員数 連結559名(14名) 単体264名(13名)

(注)臨時雇用者数(パートタイマー、人材会社からの派遣社員を含みます。)は、年間の平均人員を()外数で記載しております。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
剰余金の配当基準日	期末配当 3月31日 中間配当 9月30日
定時株主総会	毎年6月下旬
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都中央区八重洲一丁目2番1号 みずほ信託銀行株式会社
公告方法	電子公告 (https://www.jcu-i.com/) ただし、やむを得ない事由によって、電子公告による公告をすることができない場合には、日本経済新聞に掲載して行います。

	証券会社等に口座をお持ちの場合	証券会社等に口座をお持ちでない場合 (特別口座の場合)
郵便物送付先		〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
電話 お問合わせ先		フリーダイヤル 0120-288-324 (土・日・祝日を除く 9:00~17:00)
各種手続 お取扱店 (住所変更、 株主配当金受 取り方法の変更等)	お取引の証券会社等 になります。	みずほ証券 本店及び全国各支店 プラネットブース(みずほ銀行内の 店舗)でもお取扱いたします。 みずほ信託銀行 本店及び全国各支店 *トラストラウンジではお 取扱できませんのでご了承 ください。
未払配当金のお支払	みずほ信託銀行及びみずほ銀行の本店及び 全国各支店 (みずほ証券では取次のみとなります)	
ご注意	支払明細発行については、右の「特別口座の場合」の郵便物送付先・電話お問合わせ先・各種手続お取扱店をご利用ください。	特別口座では、単元未満株式の買取・買増以外の株式売買はできません。証券会社等に口座を開設し、株式の振替手続を行っていただく必要があります。

ホームページをリニューアルしました

ホームページでは、当社の企業情報をはじめ事業情報や、株主・投資家の皆様向けの情報として、決算発表資料等を適時掲載しております。



トップページ



IRページ

J C U

検索

<https://www.jcu-i.com/>

株 主 ひ ろ ば

株主優待について

当社の株主優待品は
3月31日現在
単元株以上保有の株主様へ
右記のとおり、「ギフトカタログ」を
お届けいたしております。



100株以上800株未満
2,500円相当の品
アクアマリン



800株以上4,000株未満
5,000円相当の品
クリスタル



4,000株以上8,000株未満
10,000円相当の品
ダイヤモンド



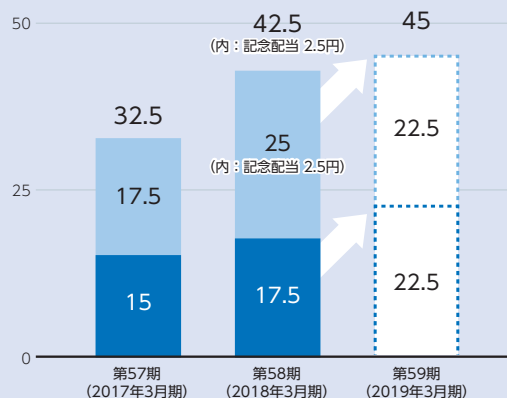
8,000株以上
15,000円相当の品
ラピスラズリ

株主還元について

利益配分に関する基本方針

当社は、将来の事業展開と経営体質の強化のために適正な自己資本比率を維持しつつ、業績の状況に応じて配当性向等を勘案し、安定した配当を実施することを基本方針としております。内部留保資金の用途につきましては、今後の事業活動並びに経営基盤の強化に有効活用していく方針であります。

配当金 (円) ■ 期末 ■ 中間



(注) 2017年4月1日付および2018年4月1日付で、いずれも普通株式1株につき2株の割合をもって株式分割を行っております。2017年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定して1株当たり配当金を算定しております。



株式会社 JCU

〒110-0015 東京都台東区東上野四丁目8番1号

TIXTOWER UENO 16階

TEL: 03-6895-7001 FAX: 03-6895-7021

<https://www.jcu-i.com/>

